

科学技術・イノベーションに関する スタディグループ（SG）中間報告

1. 本 SG の目的・趣旨

海洋政策を推進する上で重要な基盤となる海洋科学技術は、我が国の経済・社会の発展、自然災害や気候変動など地球規模課題への対応等に貢献するものであり、研究開発で得られた知見・技術・成果の社会実装を進めていくことが期待される。

一方で、経済社会の情勢や海洋科学技術を取り巻く環境は大きく変化しており、様々な変化を踏まえたうえで、海洋ロボティクスや海洋情報を含む先進的な科学技術を海洋の側面からとらえ、我が国の EEZ（排他的経済水域）の利用に必要となる基盤的技術として取り込む必要がある。

本研究会では、これまでの海洋科学技術に関する研究会における検討を引き継ぎ、領海・EEZ 等の利活用に資する科学技術の展開や社会啓蒙のあり方など、海洋科学技術・イノベーションの現状把握と課題の解決に向けて議論を深める。

2. 主な検討テーマ

第 3 期海洋基本計画では「新たな海洋立国への挑戦」が海洋政策の方向性として位置づけられており、特に海洋科学技術においては「未知なる海に挑む。技術を高め、海を把握する」ことが不可欠である。令和元年度の本研究会では、空間利用と海洋産業の発展の両面から、海洋科学技術について議論を深めることとする。

議論に当たっては、短期的な視点だけでなく、将来起こりうる環境の変化も踏まえる。我が国にとって重要な海洋産業の一つである水産業のほか、海洋空間を有効活用する手段であり、また、法制面の整備が進み、海洋産業としての発展が見込まれる洋上風力発電を一例として取り上げるなど、海洋産業の技術的課題について検討する。

3. 現在の検討状況（令和元年 12 月 19 日現在）

海洋政策を推進するにあたり、海洋産業の発展に向けて科学技術がどう在るべきか検討すべく、海洋研究開発機構や水産研究・教育機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構、長崎大学、各省庁の報告を踏まえ議論している。

これまでの SG では、長期的な海洋科学技術の展開について検討するだけでなく、短期的に集中して取り組むべきことについて意見交換を行った。特に洋上風力発電に関しては、発電コストの低減というターゲットに向けた取組の現状把握と課題の解決に関する議論を深めているところである。

(3) 第3回 SG (令和2年2月13日開催予定)【今後の海洋科学技術の展開】

① 有識者からの説明

・海洋産業の発展に向けた課題と今後の展望

② 検討課題のとりまとめに向けた議論

※1、2回の勉強会で不足のところがあれば、有識者等より報告。

